

二者面談 15分の進め方シート

「別に」で終わらせない、聞く順番と最初のひとこと

面談の前に（30秒）

- ・ドアを開ける前に立ち止まり、「今日は、この子の話をそのまま受け取ろう」と心の中で言う
- ・呼ぶときは「面談だから来て」ではなく「ちょっと話そうか」
- ・座る位置は真正面を避け、少し角度をずらす
- ・メモは生徒から見える位置に置く（書くときは「メモしていい？」と一言）

最初のひとこと（ここで空気が決まる）

- ・「今日は、怒る場でも、注意する場でもないよ」
- ・「今日はゆっくり話を聞きたくて呼びました」
- ・「15分くらい話そうと思っています」（終わりの見通しを先に）

聞く順番 ― 事実 → 気持ち → これから

【1 事実】「今週、クラスでどんなことがあった？」

【2 気持ち】「そのとき、どう思った？」

【3 これから】「これから、どうしていきたい？」

返し方の3段階（まずNoをやめる）

- ・No（否定）……「それは違うでしょう」→ 生徒は一瞬で心を閉じる
- ・Yes, but（受け止めてから指摘）……「なるほどね。でも……」→ ここまでできれば及第点
- ・Yes, And（否定せず付け足す）……「なるほどね。それなら、こういう見方もできるかな」

終わりの2～3分

- ・「今日はこんな話ができだね」と短くまとめる
- ・「また今度、続き聞かせてね」と次につなぐ一言を添える

話題別・切り出しのひとこと

- ・進路……「今の時点で気になっていることでいいよ」（決まっていなくていい、と先に伝える）
- ・友人関係……「最近のクラスの雰囲気、どう感じてる？」（「〇〇さんと何かあった？」から入らない）
- ・家庭……「おうちで、最近どんな感じ？」（話したくなさそうなら深追いしない）
- ・成績……「最近、勉強のやり方で何か変えたことある？」（点数より先にやり方を聞く）
- ・部活……「毎日、朝練にも参加してるもんね」（結果より先に、続けてきた努力を言葉にする）
- ・SNS……「詳しい使い方は分からないから、教えてもらう感じで聞かせて」

後ろ向きな言葉の置き換え（否定せず、言い直して返す）

- ・「どうせ無理」→「どうせ無理、じゃなくて、だったらこうしたらできる、で一緒に考えてみようか」
 - ・「もうダメだ」→「今はうまくいっていないんだね」
 - ・「意味がない」→「今は意味を感じられないんだね」
- （答えはこちらが用意しない。考える向きを変える提案にとどめる）

つい、やってしまうこと（チェック）

- ☐ 沈黙に耐えられず、こちらが話し始めてしまう（沈黙を埋めるのは生徒の役目）
- ☐ 「はい・いいえ」で終わる質問ばかりしている（「楽しい？」より「どんなときが楽しい？」）
- ☐ 話の途中で、心の中で評価を始めている（まず全部聞き終えてから考える）
- ☐ 1回の面談で全部を解決しようとしている（話せなかったことは次に持ち越してよい）

面談のあと（点で終わらせない）

- ・記録は事実だけを短く（「〇〇について話した」「次回、△△を確認する」）
- ・廊下で10秒の声かけ（「部活、調子どう？」）。長い面談を、短い声かけの回数で補う
- ・少しでも変化が見えたら言葉にして返す（「この間話してたこと、少し変わってきたね」）
- ・保護者に伝えるときは、先に本人に確かめる（「おうちの人にも伝えたほうがいいと思うんだけど、どうかな」）

一人で抱えない

いじめや虐待の疑いなど深刻な内容が出てきたら、その場で完結させず、学年主任・管理職、必要なら専門機関につなぎます。

「よく話してくれたね。これは、ほかの先生とも一緒に考えたいから、少し時間をもらってもいい？」と正直に伝えることが、その子を守ることになります。